

2003年10月29日

## 東京外国為替市場委員会 第67回会合 議事録

開催日時	2003年9月29日 13:00～15:30
場 所	日本銀行本店 新館9階大会議室
議 長	荻野 哲司 (東京三菱銀行)
副 議 長	梨本 忠彦 (パークレイズ銀行)
副 議 長	加島 章雄 (みずほコーポレート銀行)
書 記	川添 敬 (日本銀行)
参加委員数	16名 (別紙)

### 役員改選

荻野議長 (東京三菱銀行) より、小林委員の退任に伴い副議長を選出すること、及び運営小委員会から梨本委員 (パークレイズ銀行) の推薦があることが報告され、梨本委員の副議長就任について全会一致で承認され、運営小委員会への参加も決まりました。

### Global Operations Managers Conference

稲村委員 (シティバンク)、井上オブザーバー (日本銀行) より、9月17～18日のニューヨークでの Global Operations Managers Conference に関し報告がありました。

#### 1) 会合の概要

本会合は、主要な外為市場委員会に関連する operations managers の共通の問題に関する意見交換・情報交換を目的とし、ニューヨーク外為市場委員会が開催。

参加者は、各市場委員会の代表 (ニューヨーク、東京、ロンドン、欧州大陸、カナダ)、欧米主要金融機関の operations manager、中央銀行関係者 (FRB NY、BOE、オランダ中銀、日本銀行) 等、約 50 名。

#### 2) 議事の概要

Contingency

・一昨年の同時多発テロや SARS 等における金融機関の対応や教訓等についての説

明の後、各国中銀による BCP (Business Contingency Plan) への取り組みについて説明がなされた。

井上オブザーバーは、これまでの取組み(本邦金融機関による主として大地震を想定した BCP・日銀による非常時対応) 同時多発テロ以降の「金融市場の BCP」への取組み状況(本邦金融機関における意識の高まり、日銀によるフォーラムの開催等) について説明を行った。

#### Prime Brokerage

- ・ Volume Limit や Standard Documentation の導入の必要性、Derivative への拡大の可能性等を議論。

#### Future of FX Business

- ・ ユーロ発足後の prop trading 拡大、市場構造の変化(為替取引の寡占化) e-commerce 化の進展や CLS 導入に関する 이슈を議論。

#### Ideas for Better Management of the Future

- ・ 各市場委員会代表が、各々の最近の課題について説明。

稲村委員は、東京外為市場委は「拡大 CLS 小委員会」を開催し、本邦金融機関と CLS とのリエゾン機能を果たしたこと、アジア通貨の NDF に関し、confirmation の定着を目指して、金融機関を対象とするアンケートを行っていること等を説明。

#### Regulation

- ・ 米国の Sarbanes & Oxley 法案や、バーゼル自己資本規制の下でのオペレーショナル・リスクについての解説が行われた。

#### Derivatives and Operations

- ・ 2000 年アルゼンチン危機の経緯、緊急時の中央銀行の関わり方、EMTA の活動の現状等が取り上げられた。

#### Straight Through Processing

- ・ CLS 代表により、現在同社が settlement ベースで 35~40% のシェアを獲得との説明がなされたほか、Misys、Fxall 等の代表も各システムの浸透状況を説明。

### 3) 全体の印象・検討課題

会計・法律・市場慣行・コーポレートガバナンスといった関連する幅広いテーマが取り上げられたことが特徴。

operations manager 相互の関係の緊密化は、欧米民間金融機関では既に達成されていることが窺われ、この点は市場参加者主導の問題解決に有効であると推察。主要市場の外為市場委員会との情報共有や関係強化の観点から出席を継続すべきであろうが、バック・ミドルオフィスの専門家に出席させることも検討すべきか。

ニューヨーク、ロンドンでは、市場委員会と別に存在する Operation Group が operation に関する検討を行い、市場委員会に結果を伝達。

具体的な対応としては、東京外為市場委員会の代表に民間金融機関から専門家を加える形式、東京外為市場委員会の下部組織としてバック・ミドルオフィス関係者の小委員会を設け、その代表が出席する形式等がありうる。これらを受け荻野議長より、市場委員会としてのバック事務問題への関わり方について、海外の例を参考にしつつ運営小委員会で検討する旨が提案され、了承されました。

## 小委員会活動報告

### 1. CLS 小委員会

市川小委員長（みずほ銀行）より、以下の報告がありました。

・CLS 稼働後に生じた5回のトラブルに関し、7月30日にCLS小委員会を開催。CLS東京事務所の土屋氏より、その事象・対応等及びトラブルを受けたCLSのコンティンジェンシー対策の実施について、以下の説明を受けた。

1) 人的ミスについては、既に事務処理手続きや従業員教育プログラムの見直しを実施済み。プログラムに起因する障害についても、一部を除き対応済（9月にはソフトウェアのバージョンアップを予定）。また、インフラに起因する障害も、IBMと協議・検討し、障害対策を実施済（来年第一四半期にハードの入れ替え等、抜本的なインフラの強化を実施の予定）。

2) その他コンティンジェンシーに関しては、以下の対策を実施または実施予定。

SNBH（Short Notice Banking Holiday）について、発動時の意思決定および伝達方法を確立、実際の発動を想定したシステム面でのテストも実施済。

SNBH発動時の流動性対応は、参加者間の調整事項としてユーザーグループ等で確認済。発動時間等については、CLSのOperation and Implementation Committeeで指針を提示。

未決済取引発生時の処理プロセスの見直しを図るとともに、障害時の金利等負担の問題に関しては、CLS内コンペンセーション・ワーキンググループにてベストプラクティスの見直しを実施。

コンティンジェンシーに関する資料を近日中に各メンバーに配布予定。

3) その他

北欧3通貨、シンガポールドルの本格稼働は9月中の予定。（小委員会後の9月8日に北欧3通貨が、9日にシンガポールドルが夫々稼働済）

9月末のCLSのシステムバージョンアップに際しては、カスタディ為替もCLS対象取引として追加する予定。

来年後半期を目処に新たな通貨のCLSへの導入を検討。

なお、CLSのシステムバージョンアップに伴い、カスタディ為替をCLS対象取引とす

ることに関して、小委員会でCLSから説明を受けるべく要請することになりました。

## 2. 教育小委員会

今井小委員長（UFJ銀行）より、以下の報告がありました。

- ・フォレックスクラブと共催のセミナーについて、フォレックスクラブからの出席者を交えて9月上旬実施のアンケート結果を検討した。関心のあるテーマとしては、「人民元の動向」、「日米為替政策」、「最近の本邦金融政策」等が寄せられている。これらをもとに、講師・日程等を含め、現在検討を進めている。

## 3. 市場調査小委員会

加島小委員長（みずほコーポレート銀行）より、以下の報告がありました。

- 1) 前回開催の小委員会における、EBS社の新サービス“Prime Broker”に関する質問事項に対する、EBS社から以下の回答が得られた。

Prime Broker サービスは既存のEBSスポットディーリング・システムの拡張版であり、法規上の問題はない。

EBS社はPrime Broker Bank (PBB)、Prime Broker Customer (PBC)それぞれとPrime Broker Agreement および Service Agreement を締結するとともに、EBS Dealing Rule の遵守を要請する予定。

PBCは既存のEBS導入先、若しくはEBSユーザーとしてのcriteriaをクリアしている先を想定している。なお、PBCがヒットしたプライスのcounter partyネームは、PBCには認識されず常にPBBがcounter partyになる。

- 2) 今後小委員会としては、上記の回答内容に加え、以下のポイントについても更なる検討、議論を行う予定。

サービス提供者としてのEBS社に求められる役割について。

PBB及びPBCに求められる市場慣行の遵守や望ましいPBBコンタクトリストの内容について。

PBBのcounter partyとなる市場参加者の留意事項について。

## 4. Code of Conduct 小委員会

中島小委員長（スタンダード・チャータード銀行）により、英文の見直しを終了し、10月中の製本を目指しているとの報告がありました。また、英文の修正に伴う日本語版の細かい表現上の修正について提案があり、すべて承認されました。

## 5. NDF 小委員会

稲村小委員長（シティバンク）より、NDF Small Group Conferenceに関連して以下

の報告がありました。

- 1) シンガポール外為市場委員会より当委員会へ参加を要請。
- 2) 8月には、クォートするレートについては onshore のインターバンクレート、成立しない場合には offshore のレートを用いると決定されたほか、レートのプロバイダー、サーベイの範囲・有効数、Disruption Event の期間等について議論。
- 3) 9月には、上記の議論を継続したほか、ニューヨーク外為市場委員会と EMTA が NDF コンファメーション・テンプレートとのドキュメンテーションを開始したとの報告。
- 4) 8月に依頼を受けた ” Active NDF bank list in Tokyo Market ” については、小委員会としての推薦リストを作成・送付。

## 6. 運営小委員会

野手小委員長（三井住友銀行）より、以下の報告がありました。

- 1) 小林委員の退任に伴う新委員の公募を、9月30日で締め切る予定。
- 2) Global Operations Managers Conference 出席の稲村委員、井上オブザーバーのサポートを目的として、拡大運営小委員会を開催した。

## . その他

荻野議長より、ロンドン外為市場委員会（Foreign Exchange Joint Standing Committee）の30周年記念コンファレンスへの招待を受領し、当委員会より荻野議長、川添書記（日本銀行）が参加予定である旨、報告がありました。

(別紙)

東京外国為替市場委員会委員名簿(9月29日現在)

< 委員 >

議長	荻野 哲司	(東京三菱銀行)
副議長	加島 章雄	(みずほコーポレート銀行)
副議長	梨本 忠彦	(パークレイズ銀行)
書記	川添 敬	(日本銀行)
運営 E コマース小委員長	野手 弘一	(三井住友銀行)
広報小委員長	神田 紀昭	(ロイター・ジャパン)
教育小委員長	今井 雅人	(UFJ 銀行)
法律問題小委員長	武田 敬一郎	(三菱信託銀行)
CLS 小委員長	市川 亨	(みずほ銀行)
NDF 小委員長	稲村 秀彦	(シティバンク)
Code of Conduct 小委員長	中島 尚彦	(スタンダードチャータード銀行)
	河野 文彦	(野村証券)
	花生 浩介	(ロイヤル・バンク・オブ・スコットランド)
	竹川 雅祥	(メリリンチ日本証券)
	伊藤 一雄	(ウキョウフレックス上田ハロー)
	大木 一寛	(EBS ディーリングリソースジャパン)

< オブザーバー >

野口 嘉彦	(マネー・フロー・カース・アソシエーション)
井上 哲也	(日本銀行)
寺澤 英光	(東京三菱銀行)
竹中 浩一	(みずほコーポレート銀行)

(注) 敬称略(順不同)。 は今回出席。